

待望の初タイトル

夫婦でともに九州制覇

1オーバー 73

谷川 美帆（佐世保、59歳）



ついに手が届いた。今大会には2015年の第3回大会から参加。その年に2位タイに食い込み、17年にも2位。そして昨年が3位タイと優勝争いに加わりながらも、あと一歩及ばなかった。「ここが目標でした。やっと取れました。主人にも威張って電話します」と声が弾む。

主人とは昨年の九州ミッドシニアに優勝し、今年も3位タイ、今年の九州シニア2位の実力者・谷川富夫（つくも）。夫人の優勝で夫婦で九州を制覇したことになる。よく富夫からアドバイスを受けるが、今回も的確な一言をいただいた。佐世保から試合会場に入る前、美帆は「ジャパンに行けるくらい」の順位を考えていたが、富夫から「優勝するつもりで行かんでどうする」と。その言葉で美帆の気持ちにも変化が生じたという。「それなら」と。

それがラウンドに出る。ドライバーの調子が悪く、前半のアウトは1バーディー、4ボギーの39。ラフが深いため第1打でフェアウエーを外すと、なかなかパーオンできずにボギ

一を叩きやすい。この試合に出場した128人中、70台は4人だけという数字がいかにラフに手こずったかを証明する。前半を折り返し、美帆は「悪いなりに、よく（オーバーを）3つで辛抱した。前半は振り切れていなかった」と反省。思い切りスイングすることを心掛け、後半のインではフェアウエーをキープした。

そのインは3バーディー、1ボギーの34。ハーフのアンダーパーは1人だけ。このスコアが優勝をもたらした。14番2・5m、15番2m、17番2mと微妙な距離を沈めていった。パットが決まった理由の1つにパターのチェンジがある。今年3月からそれまでのマレット型からピンタイプに変えた。「軽いし、ヒット感が出ていて、速いグリーンに合う」。知り合いの稗田（基樹）プロが使っていたパターを『永久貸出』として使用しており、これが見事にはまった。「パットが入るといいですね」は実感である。

ゴルフは33歳から始めた。友達と旅行の最中にクラブを握ったところ、のめり込んでしまう。ほぼ毎日の練習を欠かさず、半年足らずで100切りを実現し、数年後には九州女子選手権にも出場した。長崎県の国体代表選手を5年連続で務め、同じく代表監督も5年連続で担った。同県を代表するプレーヤーの1人だ。

今でも週2回のラウンドと週3回程度の練習を繰り返す。ラウンドは常にご主人と一緒に。「小さいのにゴルフがうまい」と172cmの美帆が158cmの富夫を慈しむ。一緒で言えば、コースは異なるが、日本シニアの試合もかぶる。男子が10月25日から3日間、女子が同26日から2日間。「去年、ジャパンでは悪かったのでリベンジしたい。主人のシニアの応援には行けないけど、横浜（日本ミッドシニア）には行きますよ」。昨年、美帆の日本女子シニアの順位は83位タイ。同時期に開催される試合で果たして夫婦どちらに軍配が上がるか？

《筑紫野cc》



